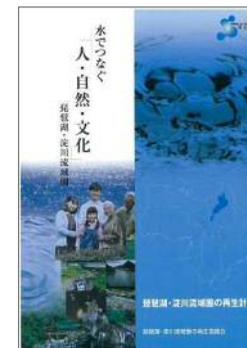




琵琶湖・淀川流域圏は、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良の二府四県に広がり、古くから水と人との密接なかかわりの中で、わが国有数の歴史・文化遺産を育み、都市と豊かな自然環境の共生のもとで繁栄してきた個性豊かな地域です。

「水でつなぐ“人・自然・文化”」を基本コンセプトとした「琵琶湖・淀川流域圏の再生計画」（以下「再生計画」）は、平成17年3月に策定され、同年4月に設置された「琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会」が、琵琶湖・淀川流域圏を健全な姿で次世代に継承するため、この計画に基づいて様々な活動を行ってきました。

再生計画は概ね5～10年間での具体化を目途としていますが、より長期的(概ね20～30年間)な見通しを踏まえながら取り組むこととされています。10年間の節目を迎え、協議会として連携して取り組んできた主な取り組み等を取りまとめました。



「琵琶湖淀川流域圏の再生計画」
(平成17年3月策定)

経緯

2003.3.16～23
第3回世界水フォーラム
京都・滋賀・大阪-琵琶湖・淀川流域を結んで開催-

2003.11.28
第6次都市再生プロジェクト
「琵琶湖・淀川流域圏の再生」決定

2005.3.30
「琵琶湖・淀川流域圏の再生計画」策定

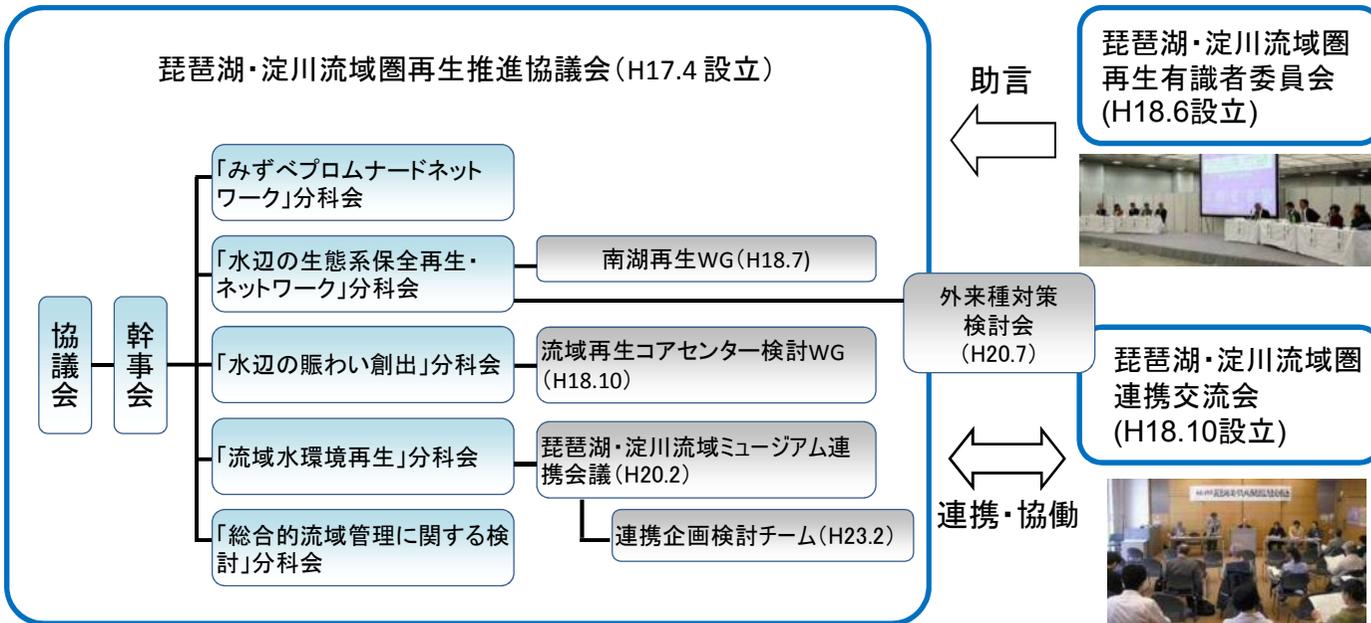
2005.4
琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会 設立

2015.3
10年が経過

【5つの連携テーマ】

計画の代表的・象徴的なテーマで、計画推進ためのプロジェクト

- (1)みずべプロムナードネットワーク
- (2)水辺の生態系保全再生・ネットワーク
- (3)水辺の賑わい創出
- (4)流域水環境再生
- (5)流域連携

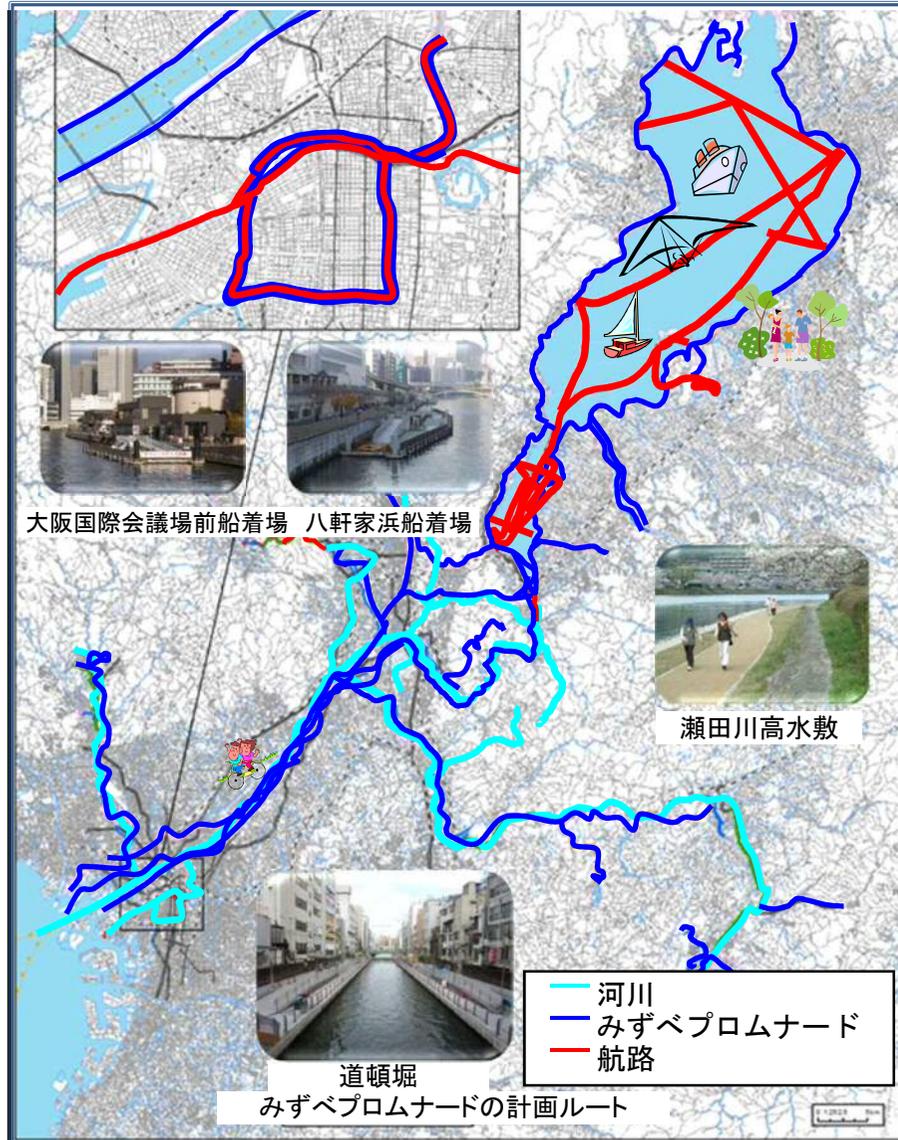


1. みずべプロムナードネットワーク

【目的】

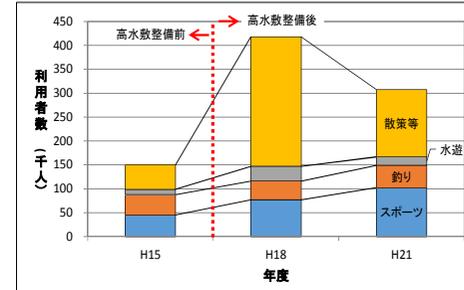
琵琶湖・淀川流域圏の水辺を、舟運・サイクリング・ウォーキング等でゆったりと味わい・楽しみ・学びながら、周遊できる水辺のネットワークを構築していきます。

1-1. ネットワークの構築

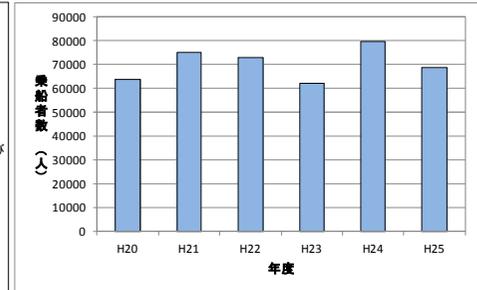


■「みずべプロムナード」による水辺への誘い

- ・陸路：「みずべプロムナード」総延長758.6kmのうち、629.6km（83%）が供用（平成27年3月現在）
- ・水路：琵琶湖・淀川流域では64か所の船着場が整備。（平成27年4月現在）



瀬田川高水敷の利用状況



大阪市内5箇所の船着場における乗船者数

1-2. 「川の駅」、「湖の駅」の整備

■川の駅としての情報発信

- ・トイレや休憩所があり、常駐する案内人が地域の情報を提供する拠点として、16箇所の船着場やレストランなどに「川の駅」の表示サインを設置し、広域展開している。
- ・「川の駅」で種々のイベントを実施。



「川の駅」(はちけんや)



「川の駅」の案内板

1. みずべプロムナードネットワーク

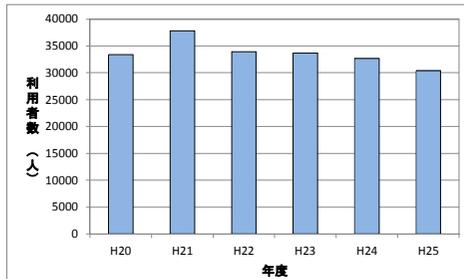
1-3. ソフト面の取り組み

■舟運事業者による船舶機能の高度化

- ・舟運事業者は、高潮位時に通過が困難な桁下が低い箇所でも運行を可能とする船舶を導入し、舟運ネットワークを広げている。



水に沈む深さを
変えられる船「ほたる」



「きらり」「ほたる」が運航する「落語家と
行くなにわ探検クルーズ」年間利用者数

■プロムナードの利活用

- ・イベント、ウォーキング、マラソン等様々な利活用が図られている。



淀川三川合流イベント

《効果》

※毎年2,000～4,000人がイベントに
参加し、淀川の文化や自然環境に
ついて理解を深める等、淀川の持
つ潜在的な魅力を再発見している。



水都おおさか森林の市



ドラゴンボート乗船体験

《効果》

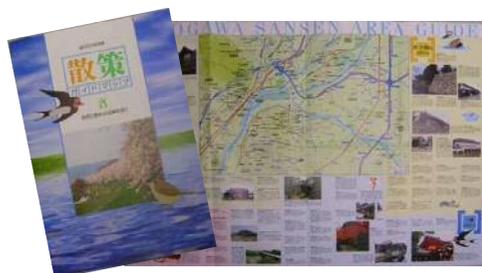
※毎年、1万人から3万人の参加者があり、普段はなじみのない
都市住民に対して、森林の重要性などを情報発信している。

■流域住民への周知

- ・「みずべ遊歩BOOK(枚方コース)」や淀川三川合流域を対象とした「散策ガイドマップ」を作成、公表しました。



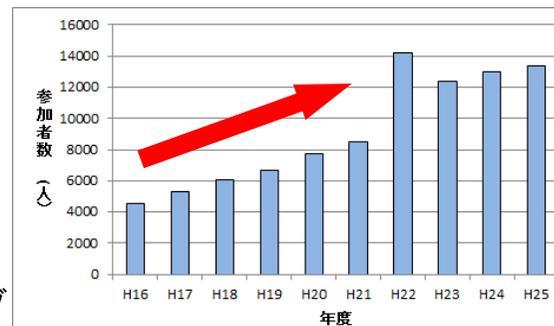
みずべ遊歩BOOK
(枚方コース)



淀川三川を対象とした
散策ガイドマップ



琵琶湖一周健康ウォーキング



大阪・淀川市民マラソン参加者数

1. みずべプロムナードネットワーク

1-3. ソフト面の取り組み

■イベントから独立営業へ

- ・イベントとして実施していた「蘇れ！！淀川の舟運」に参加していた舟運事業者が「淀川の歴史探訪の旅」として営業を開始した。

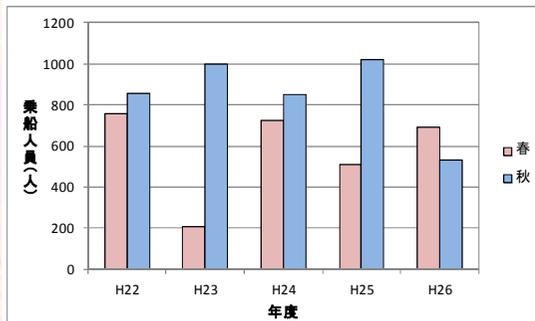


舟運イベントのパンフレット

《効果》
 ※過去7年間で約3,600人がイベントに参加し、淀川にかかわる歴史や文化を満喫した。



民間事業者による舟運イベントのパンフレット(左)と参加人数(右)



《効果》
 ※毎年、舟運イベントにより1,000人を超える利用者が淀川の歴史や文化を楽しんでいる。

1-4. 社会実験等としての取り組み

■社会実験から本格運用へ

- ・オープンカフェやイベント等の社会実験として始まった道頓堀川遊歩道の運用も規制緩和に伴い、民間事業者に運営を委託出来るようになった。

道頓堀川水辺整備



整備前

【戎橋～太左衛門橋間】



整備後

地元伝統行事(大歌舞伎船乗込)



道頓堀川水辺整備および社会実験



北浜(北浜テラス)



中之島バンクス



若松浜

民間事業者による河川敷地の利用

2. 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

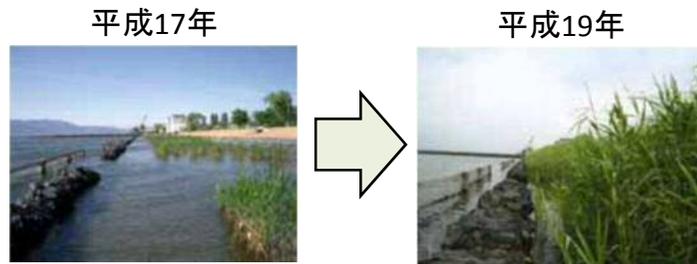
【目的】

淡水生物の宝庫である琵琶湖・淀川流域圏の多様な生態系を保全再生するため、希少種等の在来種の保全を視野に入れ、それらを取り巻く生物の生息・生育環境を保全再生していきます。

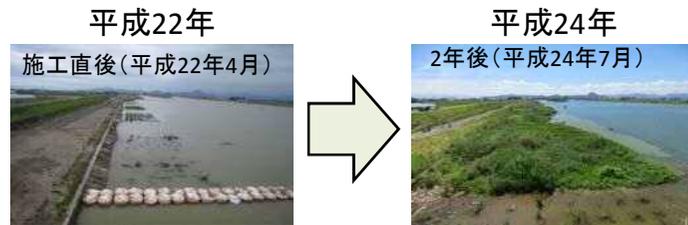
2-1. 生きものの多様な空間づくり

■再生したヨシ帯に魚が繁殖

- 淀川や琵琶湖の沿岸において、ヨシ帯の整備・保全をしています。



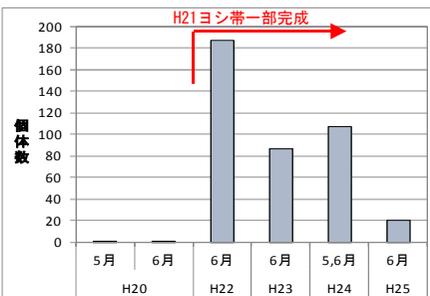
琵琶湖守山地区ヨシ帯の再生状況



ヨシ帯の整備状況(野洲川河口部)



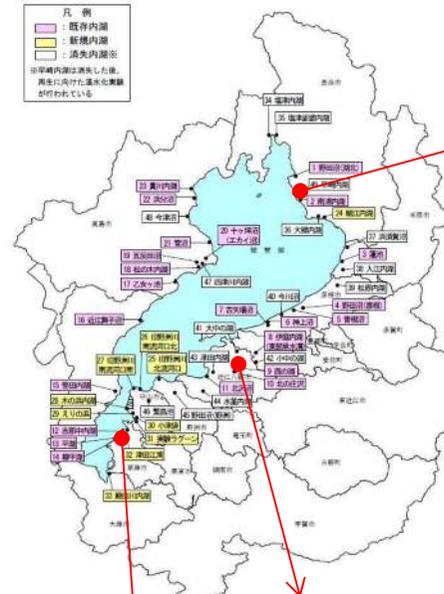
琵琶湖ヨシ帯の面積



仔稚魚(コイ・フナ類)確認状況 (野洲川河口部)

■内湖の環境改善

- 「内湖再生全体ビジョン(平成25年3月策定)」に基づき、消失した早崎内湖の再生(20ha)や西の湖、木浜内湖、平湖、柳平湖の保全のため浚渫や覆砂等の浄化事業をしています。



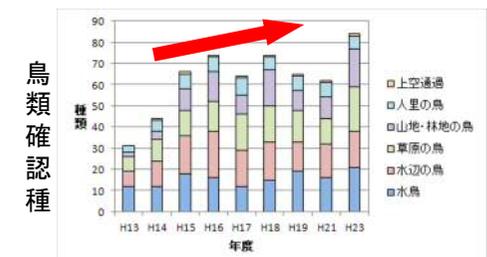
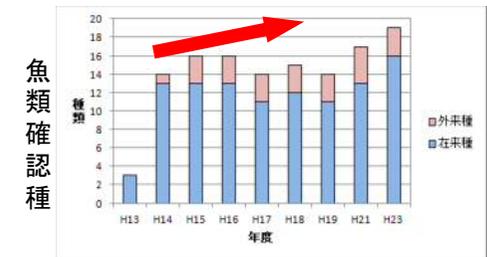
早崎内湖の湛水



西の湖の浚渫



平湖・柳平湖の浚渫



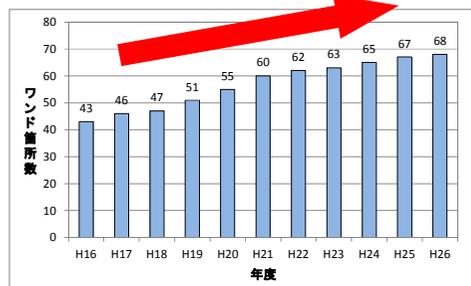
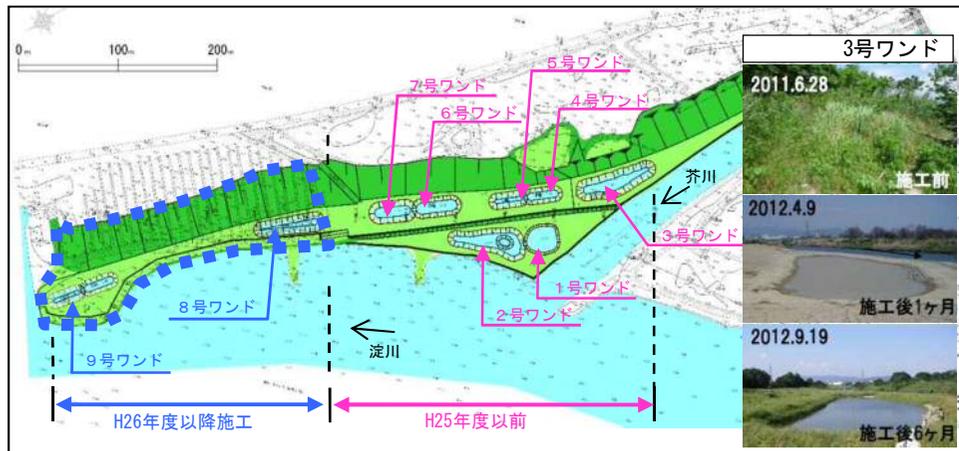
早崎内湖のモニタリング結果

2. 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

2-1. 生きものの多様な空間づくり

■ワンドの保全再生

- 平成17年度以降赤川地区、樟葉地区、牧野地区、唐崎地区で整備し、10箇年で25個のワンドを整備しました。



ワンドの保全・整備箇所数
(淀川河川事務所管内)

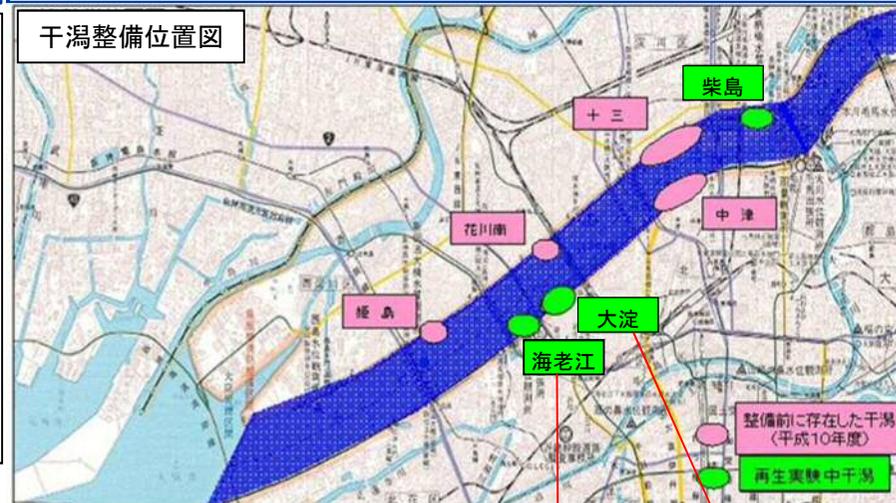
■礫河原の再生

- 猪名川の河川横断形状の修復に向け、約3.1haの礫河原再生を実施しました。
- 北伊丹地区の礫河原再生地では、NPOや地域住民、企業の参画により外来植物対策が行われています。



■干潟の保全再生

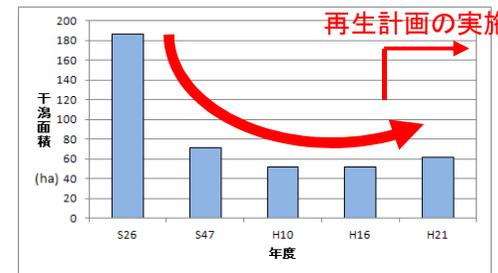
- 淀川海老江、大淀、柴島地区において、約10haの干潟の保全再生をしました。



海老江干潟



大淀干潟



干潟面積の推移

2. 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

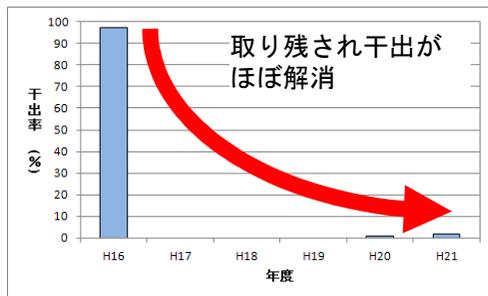
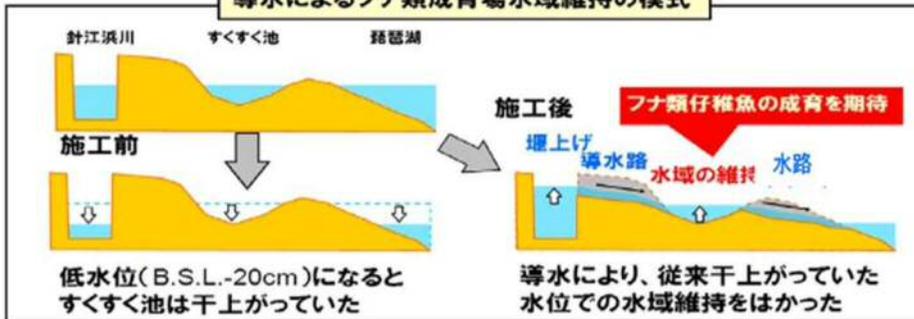
2-2. 生きものが出会うネットワークづくり

■琵琶湖と陸域をつなぐ「うおじまプロジェクト」

- 高島市(針江地区及び深溝地区)において、琵琶湖と陸域(水田、湿地等)との連続性を確保するため、「うおじまプロジェクト」として、水路掘削や導水施設の設置等試験施工を実施しました。



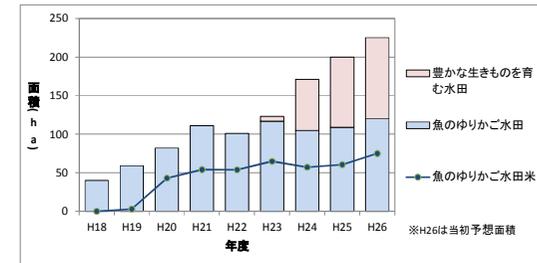
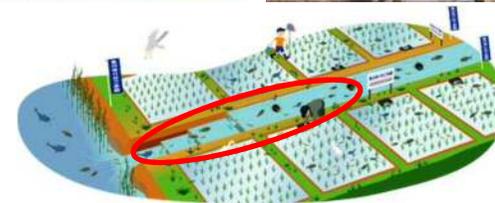
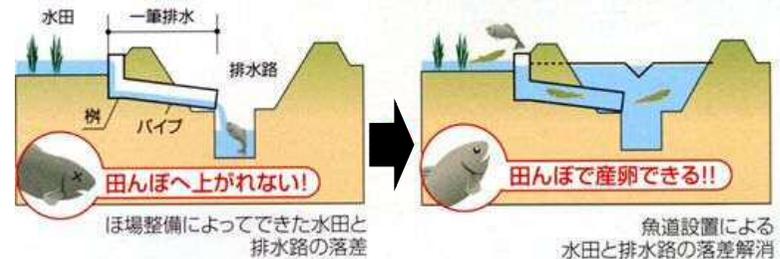
導水によるフナ類育成場水域維持の模式



針江浜の干出率の推移

■生物との共存を目指す「魚のゆりかご水田プロジェクト」

- 琵琶湖と水田との間を魚が行き来し、産卵繁殖していたかつての水田機能を回復させる「魚のゆりかご水田プロジェクト」など豊かな生き物をはぐむ水田の取り組みを拡大しています。



魚のゆりかご水田米のロゴマーク(左)とその取り組み面積(右)

2. 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

2-2. 生きものが出会うネットワークづくり

■魚がのぼりやすい川づくり

- ・各機関において、魚道の設置や改良を行い、川の連続性を確保しました。
- ・堰管理者と地元関係者が協働で魚道の改良に取り組むことで、魚道の重要性を認識し、維持管理への意識を向上することができました。

魚道の設置状況とその効果

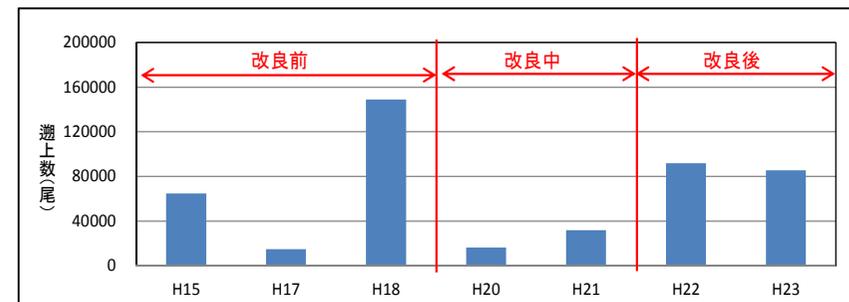
河川名	改良した堰等	(一部)供用年度	モニタリング結果等
淀川	淀川大堰	平成21年度	アユの遡上数が増加
桂川	1号井堰	平成23年度	魚類の遡上数が増加 (平成16年5月:2個体→平成24年6月:181個体)
小泉川	落差工	平成17年度	落差工前後でオイカワ、ヨシノボリ、アユを確認
芥川	芥川1号井堰	平成22年度	平成23年 魚類:11種(アユ、オイカワ、ドンコ、カワヨシノボリ等)、甲殻類:1種(スジエビ)を確認。 平成24年 アユの推定遡上数は11,056個体。 NPO、住民、行政の協働により、アユが遡上できる環境の再生を進めており、複数の簡易魚道の設置、モニタリング調査、遡上アユの観察会、魚道整備ワークショップなどを実施している。
	JR橋梁下流落差工	平成20年度	
	門前橋下流落差工	平成21年度	
	正恩寺橋下流落差工	平成22年度	
	西之川原井堰	平成17年度	
野洲川	落差工	平成20年度	アユの遡上数が増加 (平成20年7月:8個体→平成22年7月:317個体)
小畑川	全断面魚道	平成23年度	平成23年 オイカワ等の遡上を確認
宇陀川	ナルミ井堰	平成22年度	平成24年 魚類:4種、甲殻類:2種の遡上を確認。 平成26年 魚類:9種、甲殻類:3種の遡上を確認(速報値)。
藻川	大井井堰	平成20年度	簡易魚道を試験的に設置するとともに、設置後にモニタリングを実施している。
猪名川	三ヶ井井堰	平成23年度	平成24年 アユ:9個体、ウキゴリ:196個体、モクズガニ:25個体を確認
	高木井堰	平成23年度	平成24年 アユ:6個体、ウキゴリ:2個体、モクズガニ:37個体を確認
	久代北台井堰	平成25年度	(調査中)
	余野川落差工	平成25年度	(調査中)
	池田床固	平成26年度	(平成27年度から実施)
名張川	高岩井堰	平成26年度	(平成27年度から実施)



魚道の設置例

(淀川大堰) 改良前

改良後



淀川大堰アユ遡上期における遡上実態調査結果

2. 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

2-3. いきいきと流れる川づくり

■川本来の営みの復元

・琵琶湖・淀川流域にあるダムにおいて、試験的にダムの水を放流し、疑似洪水*を発生させ、自然の浄化能力の回復を試みました。

*本来、川は洪水により、土砂や生物を流す機能があります。ダム等の建設により洪水が少なくなると、私たちの生活が安全になる反面、川の流況は単調となり、自然環境においては、下流域で土砂の運搬量が少なくなったり樹木の繁茂したりと様々な弊害が発生します。

置土状況



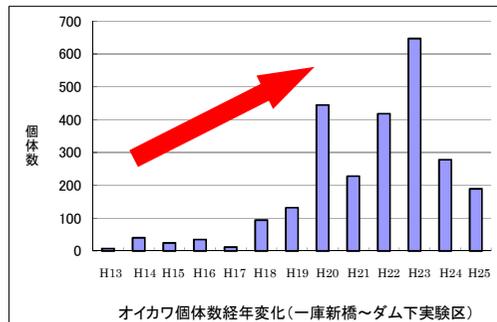
フラッシュ放流



比奈知ダム下流



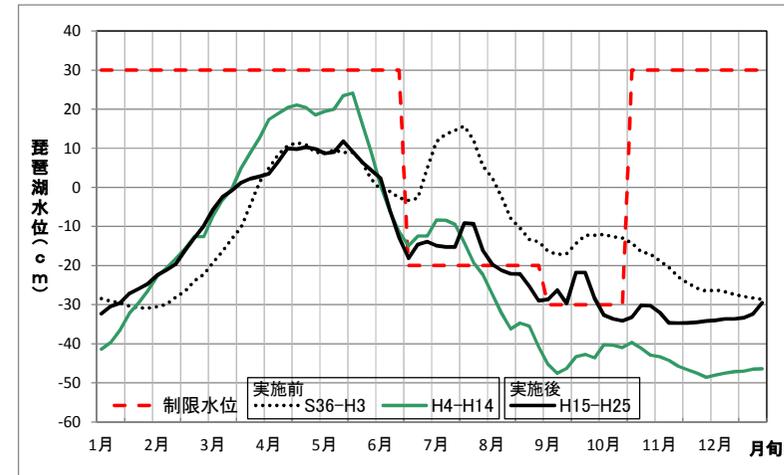
フラッシュ放流前後の藻類剥離状況
(比奈知ダム:四間橋地点)



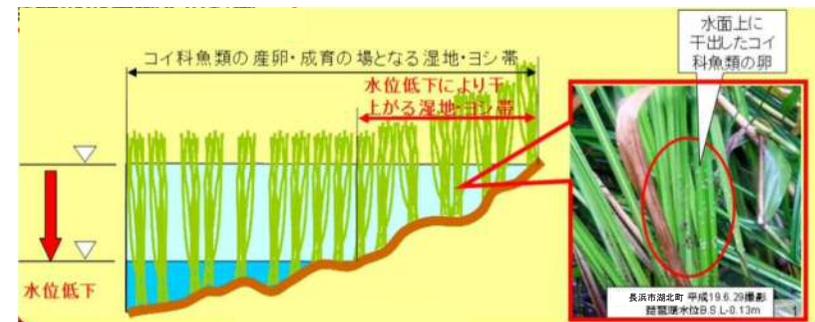
オイカワの個体数の経年的変化
(一庫ダム:一庫新橋～ダム下実験区)

■琵琶湖水位の変動改善検討

・琵琶湖や淀川で産卵・生育する魚類を保護するために、平成15年度より治水・利水に影響を与えない範囲で、魚類の産卵環境に配慮した水位となるよう瀬田川洗堰や淀川大堰の試行操作を実施しています。



瀬田川洗堰試行操作による琵琶湖水位の比較



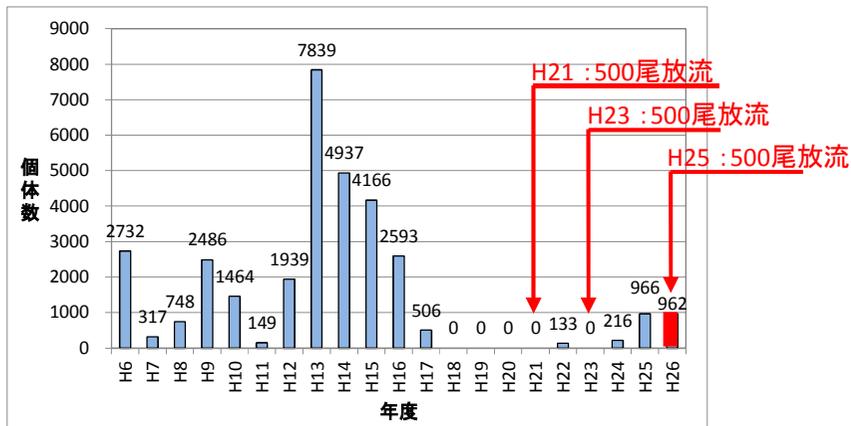
琵琶湖湖岸域の状況

2. 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

2-4. 琵琶湖・淀川流域圏ならではの種の保存

■イタセンパラが帰ってくる

- ・淀川では、国の天然記念物であるイタセンパラの生息環境となるワンドの環境改善を実施し、生育できる環境が整った場所へ放流をしています。
- ・民学官の連携により「淀川水系イタセンパラ保全ネットワーク」を設立し、淀川の生物多様性の復元に取り組んでいます。



イタセンパラの稚魚の個体調査結果



イタセンパラ

【イタセンパラ】

- ・日本の固有種で、国の天然記念物に指定されている。ビワタナゴとも言われている。
- ・淀川では平成18～21年度まで確認されなかった。
- ・大きさは通常7～8cm。
- ・水流がないか、極めて流れが穏やかな場所に生息する。
- ・寿命は1～2年で、繁殖が終われば死ぬ個体が多い。2年目を迎えても繁殖後にはほぼ死滅する。

■外来種を知ってもらおう

- ・外来種の被害や危険性をパンフレットやイベントなどで、流域住民へ広報しました。



BY展における情報発信の様子



一般周知用の広報



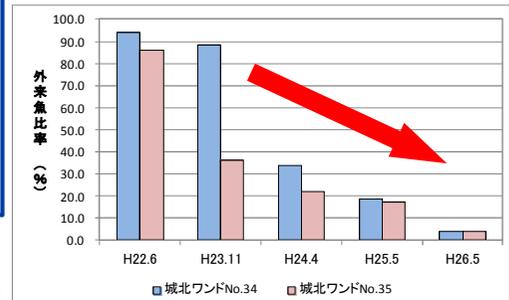
琵琶湖内湖におけるオオクチバス等防除の手引



外来生物対策の手引き～水草編～

■外来種...淀川で駆除

- ・淀川ワンドでの種々の漁具を用いた外来魚駆除効果試験を実施し、効果が見られました。



淀川ワンドにおける外来魚比率の推移

2. 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

2-4. 琵琶湖・淀川流域圏ならではの種の保存

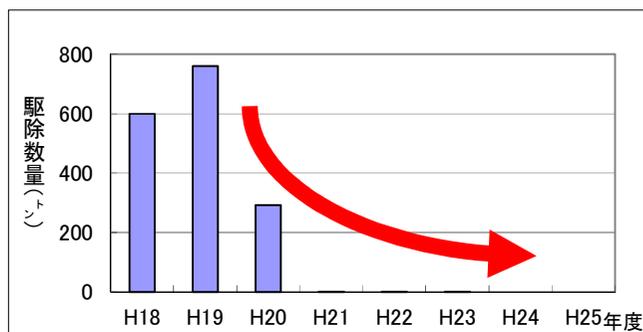
■効果的に外来種を駆除

…ボタンウキクサとナガエツルノゲイトウ

- ・淀川においては、ボタンウキクサの除去を平成18年度より実施しています。平成20年度に、発生初期から継続的に除去作業をしたところ、効果的に除去できることが確認されました。
- ・ナガエツルノゲイトウは、平成21年度から大阪府立環境農林水産総合研究所、水生生物センターと協働して駆除を実施しています。



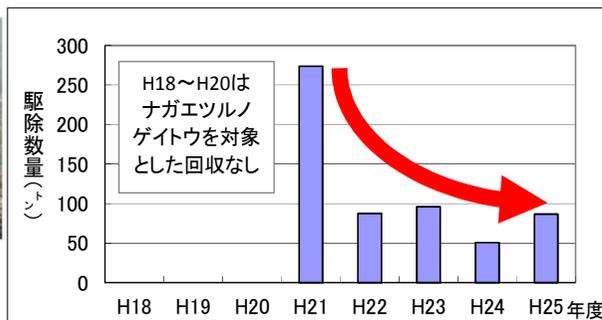
ボタンウキクサの除去作業



ボタンウキクサの駆除数量



ナガエツルノゲイトウの除去作業



ナガエツルノゲイトウの駆除数量

■外来種...琵琶湖でも駆除

- ・琵琶湖において、外来魚の駆除、回収ボックスやいけすによる回収、外来魚駆除釣り大会の開催、有効活用処理を行うとともに、防除手法の実地検証や在来魚・外来魚の生息状況調査など各種取り組みを実施しました。



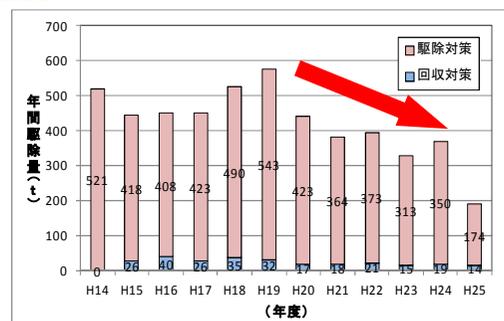
外来魚回収いけす



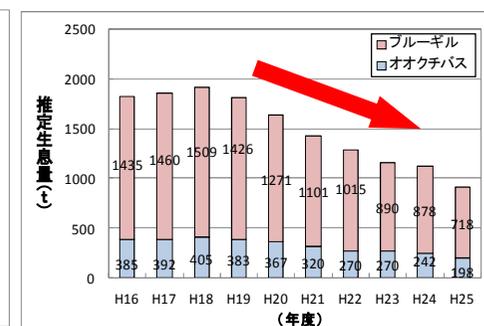
外来魚回収風景



外来魚回収ボックス



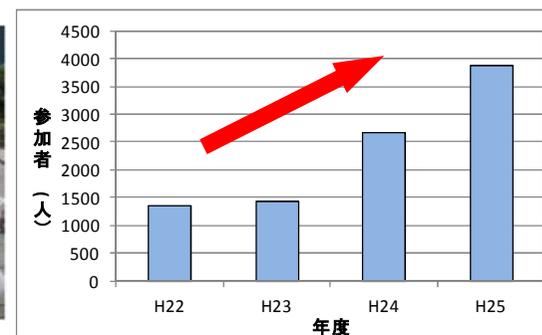
琵琶湖における外来魚駆除量の推移



琵琶湖における推定生息量の推移
(ブルーギル、オオクチバス)



琵琶湖における外来魚駆除協力隊による釣り大会の様子(左)とその参加者数(右)



3. 水辺の賑わい創出

【目的】

琵琶湖・淀川流域圏において、まちに潤いをもたらす「せせらぎの創出」、水辺にふれあい、楽しむことが出来る「親水空間の再生・創出」を図り、人々が集い、活気に満ちた水辺を創出していきます。

3-1. せせらぎの創出

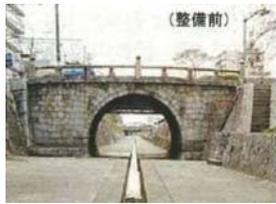
■せせらぎでまちなかに賑わいを

- 堀川で第二疏水分線から導水し平成21年3月にせせらぎを復活させました。
- 整備後は地域住民が主体となり、河川の維持を実施しています。

■様々な水利用

- 農業用水路の改修と合わせて、子供たちの遊び場、冬の消雪、防火用水など、農業用水がもっている地域用水としての機能を維持・増進しています。
- 農業用水に完全従属する小水力発電計画を啓発しています。
- 大津市では、旧国鉄逢坂山トンネルから既存側溝に流れ込む湧水を市街地部に引き込み、せせらぎ水路を創出するための整備を実施しています。

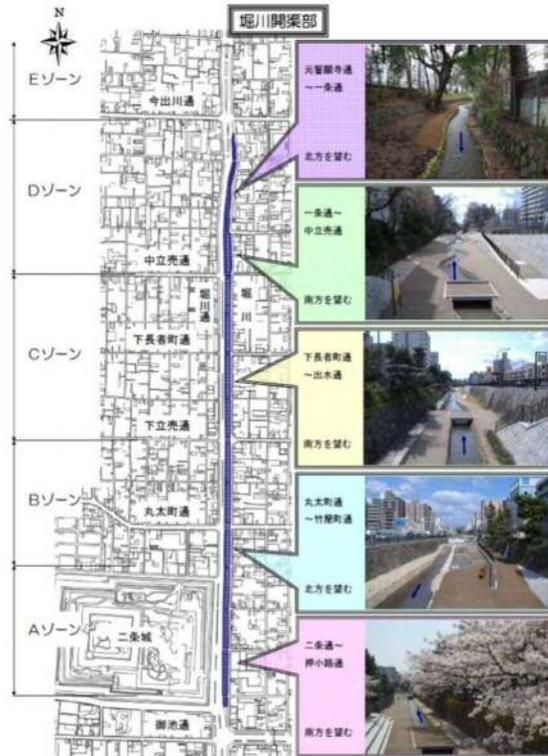
整備前



(整備前)



整備後



堀川のせせらぎ水路の整備(出典:京都市HPより引用)



農業用水を利用したせせらぎ水路



街灯に水車で発電した電力を供給しています。

農業用水を利用した小水力発電



旧国鉄逢坂トンネルの湧水を利用したせせらぎ水路

3. 水辺の賑わい創出

3-2. 親水空間の再生・創出

■川の駅で夕涼み

- 八軒家浜船着場付近に「川の駅」はちけんやをオープンさせ、平成21年度より天神祭の観覧事業を開催しています。



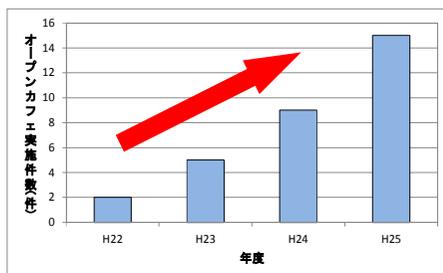
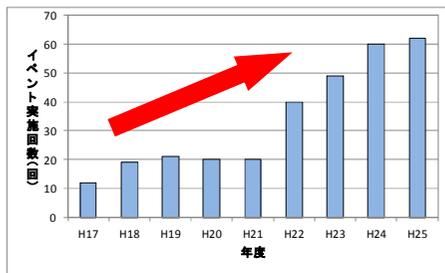
天神祭

■道頓堀で賑わい堪能

- 道頓堀川において、道頓堀川遊歩道(とんぼりリバーウォーク)を整備し、オープンカフェやイベント等を実施し、実施件数は毎年増加しています。



道頓堀川の整備状況



とんぼりリバーウォークでの
イベント実施回数(左)とオープンカフェ実施件数(右)

■枚方の川に開かれたまちづくり

- 淀川と一体となった市民の交流拠点の整備、枚方市駅から淀川へのアクセス改善のため横断デッキの整備、停泊地の整備などを実施しました。
- 舟運関連イベント、歴史街道枚方宿街なみ環境整備において「ジャズストリート」「くらわんか五六市」を継続的に実施しています。



淀川舟運イベント

ジャズストリート

くらわんか五六市

■水、人、地域が融合、淀川三川合流域地域づくり

- 平成19年に「淀川三川合流域地域づくり構想」を策定しました。
- 構想に基づいて具体的な整備内容を探るため、背割堤七夕まつり等の活動をしています。

背割堤七夕祭りによる淀川三川合流地域のPR



七夕飾りと灯ろう

七夕船の運航

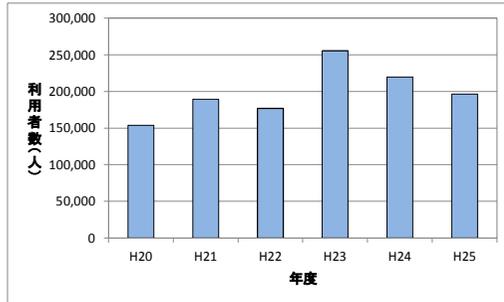
工場見学

3. 水辺の賑わい創出

3-2. 親水空間の再生・創出

■長浜港を拠点に琵琶湖を楽しもう

- 琵琶湖長浜港において、快適なみなとづくりと街の魅力向上を目的に、緑地や駐車場等を整備しています。



長浜港(左)とその旅客利用者数(右)

■大川で水浴び

- 大川において、「大阪ふれあいの水辺づくり」として砂浜整備や河川浄化施設等を整備しています。



「大阪ふれあいの水辺づくり」の整備図

■水辺空間の弾力的運用

- 木津川では、三本松地区や笠置地区で「水辺の楽校」、南山城村で「かわまちづくり」として水辺を整備しています。



三本松の水辺の楽校



笠置の水辺の楽校



南山城村のかわまちづくり



ふれあいの水辺オープニング5daysでの賑わい状況

3. 水辺の賑わい創出

3-2. 親水空間の再生・創出

■「たからもの」をみつけよう

- HPなどで琵琶湖・淀川流域の「たからもの」を公表しています。



にぎわいカード

区分	所在地	管理者	区分	所在地	管理者
京-001	宇治川の中央に浮かぶ公園 馬公園・賑わい施設	京都府(石塔は別)	京-002	桂川の中央に「たからもの」 馬公園・賑わい施設	京都府
所在地		管理者	所在地		管理者
宇治市宇治(宇治公園)		京都府(石塔は別)	京都市右京区嵯峨(嵐山公園)		京都府
「たからもの」解説					
宇治川の中央に浮かぶ島の真ん中、橋の真ん中には高さ約10メートルの石塔が立つ。石塔としては数ヶ所最大で重要文化財に指定されている。			桂川の中央をなす中之島地区、桜や梅が多く花見の季節には多くの行楽客で賑わう。		
京-003	舞のトンネル 馬公園・賑わい施設	国土交通省	京-004	京の七夕 4世紀の風土・建造物	主催:京の七夕実行委員会
所在地		管理者	所在地		管理者
八幡市(淀川河川公園)		国土交通省	京都市堀川、鴨川		主催:京の七夕実行委員会
「たからもの」解説					
本津川と宇治川に架された背割堤の上に約1.4km「舞」をテーマに、全国から様々な思いを募るとともに、堀川、鴨川メイン会場として併せて夜の賑わいを演出する「京の七夕」が毎年恒例に開催。			「たからもの」解説		
本津川と宇治川に架された背割堤の上に約1.4km「舞」をテーマに、全国から様々な思いを募るとともに、堀川、鴨川メイン会場として併せて夜の賑わいを演出する「京の七夕」が毎年恒例に開催。					

「たからもの」の公表

■光のまちづくり推進

- 行政(大阪府、大阪市等)、経済界、NPO、照明計画専門家等による構成員にて、「光のまちづくり推進委員会」が組織されています。
- 2020年を目標に、中之島周辺や八軒家浜、東横堀川等の水辺空間における広範囲なライトアップ整備を推進しています。



天満橋



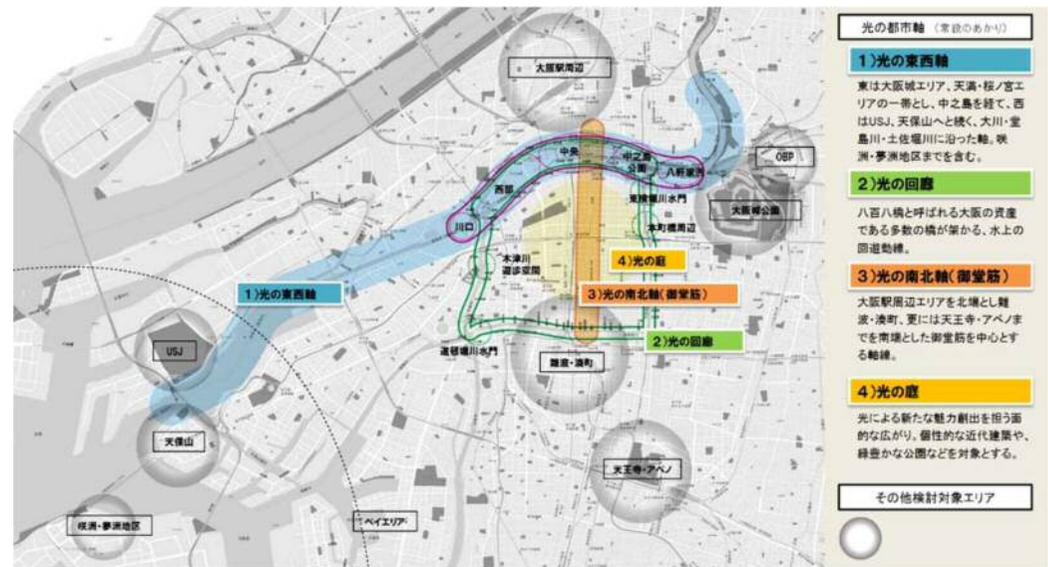
八軒家浜船着場

■水辺空間のライトアップイベント

- 堀川、鴨川をメイン会場として「京の七夕」を開催し、水辺空間の快適性を活かしたライトアップを実施しています。
- 竹や光、伝統産業品などで夜の賑わいと京都らしい風情を演出することから、京都の夏の風物詩として定着してきました。



「京の七夕」の開催の様子



大阪光のまちづくり2020構想 対象エリア

4. 流域水環境再生

4-1 適正な水管理のための水環境改善計画の作成

■ 計画的な水環境の管理

- ・猪名川、木津川上流で水環境管理計画の検討を実施しています。



猪名川分科会



木津川上流検討会

■ 森林機能をPR

- ・「水都大阪森林の市」等のイベント開催時にパネル展示等を行い、森林の持つ多面的機能の普及・啓発をしています。



水都おおさか森林の市での活動

4-2 「生命の水再生」アクションプランの実施

■ 森づくりのイベント開催

- ・上流の林業団体と下流の市民団体・企業等が連携した森づくりの実施や、強化月間の設定、啓発イベントの実施など協働による森林づくりの取り組みを実施しています。



チェーンソーアート



木片を使った積木

■ 森林を育てよう

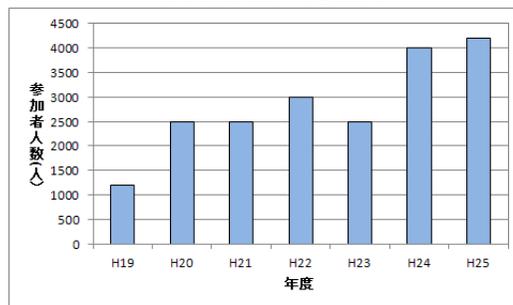
- ・箕面国有林において、「オオクワガタの棲める森づくり」のイベントとして、NPOや地域住民、地元小学校等が参加した広葉樹の植栽、育成を実施しています。



オオクワガタの棲める森づくりの開催状況



特設ジャングルジム



森づくり交流会ふれあいフェスタ 参加者推移

■ 農業用水による環境保全

- ・地域ぐるみで農地・農業施設の維持管理・保全及び景観保全を実施しています。
- ・黒田地区(木之本町)を流れる農業用水路を魚介類の生態系に配慮した水路として整備しました。



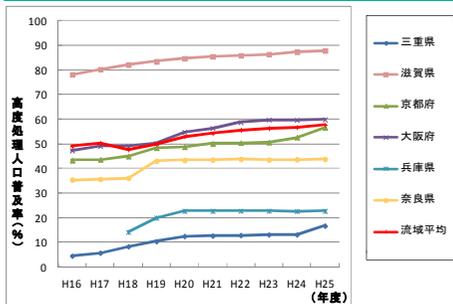
黒田地区の農業用水路

4. 流域水環境再生

4-2 『生命の水再生』アクションプランの実施

■下水道等の整備

- 関係機関により、下水道の整備を促進し、合流式下水道の改善や下水処理の高度化も進めています。



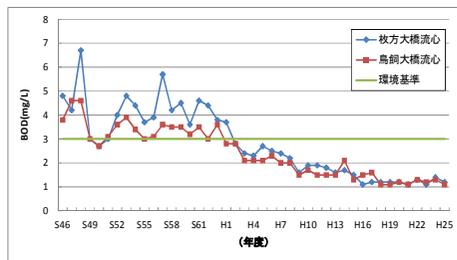
琵琶湖淀川流域の
下水道高度処理人口普及率



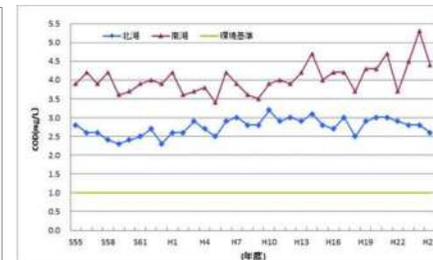
琵琶湖への流入汚濁負荷推定量

■琵琶湖・淀川流域の水質

- 琵琶湖流域では下水道等の整備により、産業系、生活系の汚濁負荷量は削減され、淀川本川の水質は改善してきています。



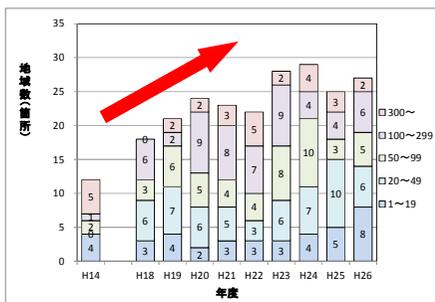
淀川でのBOD(75%値)の推移



琵琶湖でのCOD(75%値)の推移

■赤野井湾をきれいに

- 赤野井湾流域における流出水対策として赤野井湾流域流出水対策推進計画(第2期)を第6期湖沼計画に位置づけ、各取り組みを実施しています。



ホタル飛翔地域数
(守山市赤野井湾)

■里山リニューアル事業

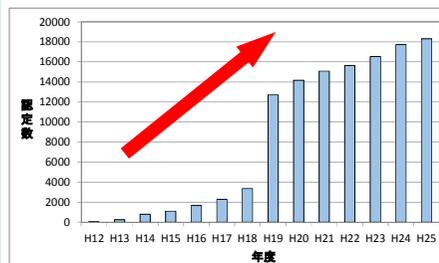
- 滋賀県では、荒廃した里山の環境整備を支援し、地域住民等による里山の利活用を促進しています。



里山整備作業の様子

■エコファーマーの認定促進等

- 環境保全型農業を推進するためのコンクールや「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づくエコファーマーの認定促進等を実施しています。



エコファーマー累積新定規認数

■情報発信・一斉行動・交流

- 水資源や水環境への関心を高めるためにダムや浄水場の見学会、打ち水一斉行動、近畿「水辺の交流会」を開催しています。



柴島(くにしま)浄水場の見学



打ち水



「子どもの水辺」交流会

4-3 水と人とのつながりの再構築

5. 流域連携

【目的】

琵琶湖・淀川流域圏の水環境に関する様々な課題に対して、森林地域や農村地域だけではなく、流域の恵みを楽しむ都市部が一体となり、豊かな水を育む森林・農用地の保全及び再生や、河川や湖沼のさらなる水質改善、安定した水量の確保を図り、健全な水環境を実現していきます。

■琵琶湖・淀川流域圏連携交流会

- 平成18年10月に「琵琶湖・淀川流域圏連携交流会」を設立。
- 様々な活動を通じて多くのNPO等が連携・交流を深めています。

外来種対策勉強会



BY展でのヨシを使った
工作教室



フォーラムの案内



木津川カヌーの日

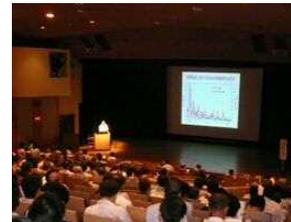


琵琶湖・淀川流域圏連携交流会の活動例

■公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構

- 琵琶湖・淀川流域における水質保全に関する調査研究・研究助成をしています。
- 「飲める水遊べる水辺 次世代に」を活動テーマに掲げ、「遊んだり泳いだりするのに適した河川や湖にする」という目標を実現するために、行政や住民と一体となって取り組んでいます。

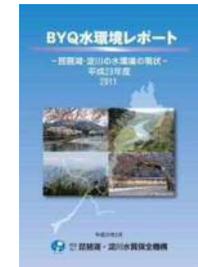
シンポジウムの開催



成果報告会



BYQ水環境レポート



(公)琵琶湖・淀川水質保全機構の活動例

■琵琶湖・淀川流域圏再生有識者委員会

- 「琵琶湖・淀川流域圏再生有識者委員会」を平成18年6月に設置しました。
- 毎年、「琵琶湖・淀川流域圏再生有識者委員会および年次報告会」を開催しています。
- 統合的流域管理の検討や外来種対策においても、助言をしています。



有識者委員会



年次報告会

6. 10年間の活動を振り返った体験談・感想

■広がった交流の輪！！

兵庫県尼崎市椎堂地区において、台風18号による河川環境の変化と外来植物・在来植物の生育状況について知るための現地観察会を行い、特定外来種アレチウリの抜き取り駆除を実施しました。この活動に参加いただいた地域活動団体同士で交流の輪が広がりました。(猪名川河川事務所)



観察会の様子



アレチウリ駆除の様子

■イタセンパラ保全の活動に参加して！！

淀川の外来魚駆除効果調査、大規模外来種駆除試験及び「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク」の活動に、市民の方々に参加いただきました。外来種を駆除した人たちと共に汗を流し、在来水生生物が目に見えて増加してくる様子をつぶさに観察することで、イタセンパラが野生復帰できた喜びと感動を分かち合っていました。(大阪府)



地曳網による外来魚駆除作業

■木津川の素晴らしい自然環境を知ってほしい！！

自然に親しみながら学び、自然環境を守っていくことを目的として、自然観察会の開催や生物調査等を行ってきました。木津川で開催した親子自然観察会では、カワセミや爬虫類を間近で観察でき、子どもたちが目を輝かせていました。夏休みに企画した魚採りのイベントも大人気で、800人以上の申込みがありました。

生物調査の取り組みでは、木津川の河原でコチドリ、シロチドリ、イカルチドリの定着を確認しているほか、近畿地方では絶滅したと言われていたレンリソウの発見や、木津川では特に珍しいフナバラソウの発見等の成果を挙げています。2014年3月には、これらの調査活動の集大成として、冊子「木津川ってどんな川？」を1万冊発行し、木津川沿川の各小学校に50冊寄贈しました。

手にした子どもたちが木津川への知識を身につけて成長してくれることを願い、この素晴らしい自然環境をさらに広く知ってもらえるよう頑張っています。

(やましろ里山の会)



みんなで力を合わせて魚とり



絶滅したと言われていたレンリソウ

■多くの参加者との趣向を凝らした活動！！

源八橋からの「大川と大阪城」の風景は、有数のビューポイントとして定評があります。しかし足元の貯木場跡のワンドは、引き潮になると川の底から自転車やバイクなどの不法投棄物が顔を覗かせます。

「魚が集まれば人も集まる」、「行動、調査、提案...」などと意気盛んに仲間と共に酒盛りをしたのが2006年の春。当初は十数人とおぼつかない「大川クリーン活動」でしたが、現在では多くの団体などのご協力で200人を超える参加者があり、地引網やEボート体験など趣向を凝らした活動に発展しています。(おお川水辺クラブ)



大川クリーン活動



Eボート体験



大川クリーン活動(集合写真)

7. 活動のまとめ

7-1. テーマ毎の活動成果と今後の課題

(1) みずべプロムナードネットワーク

●活動の成果

水辺を利活用・体験するための遊歩道や船着場等の整備、水辺を活かした各種イベントの開催、水辺の魅力を周知する広報資料の作成等の取り組みがおこなわれ、本再生計画当初からは流域全体で親水性が向上している。

●今後の課題

- 都市部中心の取り組みから、施策の流域全への拡大
- 広報効果を高めるためのホームページのポータルサイト化
- 水辺を活かしたイベント等への流域圏の優れた文化性や地域の個性・風土の活用

(2) 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

●活動の成果

在来種を保全、再生する施策、生物の生息環境となるヨシ帯やワンド、干潟等の整備、川の連続性を確保する魚道の整備、外来種の駆除・啓発等の取り組みが行われ、効果が発現されてきている。

●今後の課題

- 環境の復元・再生とモニタリングの順応的・継続的な実施
- 外来種対策の啓発活動による流域住民・団体の協力
- 目指すべき生態系の目標・姿の検討
- 生態系に係る新しい課題にも対応するための継続的な取り組み

(3) 水辺の賑わい創出

●活動の成果

人々が水辺に集まり、水辺に活気を取り戻す施策、せせらぎの復活、水辺を活かした催し、水辺の魅力を周知する広報施策等の取り組みが行われ、効果が発現されてきている。

●今後の課題

- 地域の住民やNPO 等との連携・協働による水辺空間の継続的な維持管理の実施
- 沿川市街地への整備効果の波及
- 日常的な利用による緩やかで継続的な賑わいの創出

7. 活動のまとめ

7-1. テーマ毎の活動成果と今後の課題

(4) 流域水環境再生

●活動の成果

モデル流域での水質管理手法等の検討、流域全体での土地利用も考慮した水環境の再生、琵琶湖・淀川の水文化に関する情報の発信、流域の水環境への理解や意識を高めるための様々な催し等の取り組みが行われ、効果が発現されてきている。

●今後の課題

- 流域全体を視野に入れた統合的、一体的な水環境の管理等についての検討
- 次の世代を担う子供たちに理解を深めてもらうための学校教育の現場との連携
- 水環境に係る新しい課題にも対応するための継続的な取り組み

(5) 流域連携

●活動の成果

「琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会」、「琵琶湖・淀川流域連携交流会」の設置、並びに、同会が主体となった連携・交流活動等の取り組み等の取り組みが行われ、効果が発現されてきている。

●今後の課題

- 10年間の活動実績や市民活動の成熟化等を背景とした適切な推進体制の再構築
- 多くの活動主体や民間企業、文化団体等との連携の在り方の検討
- 各活動団体の活動者の募集・育成と円滑な世代交代の推進
- 関係機関や様々な活動団体の相互連携・協働による再生計画の推進

7. 活動のまとめ

7-2. 再生計画推進の成果と今後の方向性

(1) 10年間の活動の成果

- 推進協議会において関係機関のネットワークを形成し、様々な情報を集約・共有して相互に連携しつつ取り組んできた。
- 有識者委員会において貴重なご助言をいただき、再生計画の取り組みに活かしてきた。
- 流域圏で活動する様々な団体を緩やかに結ぶネットワーク:連携交流会を設立したことで、団体相互の交流と理解が深まり、活動が活発化された。
- こうした推進施策のもとでの個々の活動の積み重ねによって、再生計画の成果が顕在化しつつある。

(2) 今後の方向性

今後の取り組みにおいては、以下に示した方向性を踏まえつつ、人を含めた全ての生物の営みが持続可能となる環境の再生と、安全で活力溢れる魅力的なまちづくりを行うため、引き続き再生計画の取り組みを推進することが必要である。

- 市民・NPOなどと協働した取り組み
 - ・多様な主体による連携と協働を進めるための仕組みづくり
 - ・個々の活動団体の育成と活動の支援の方法について検討

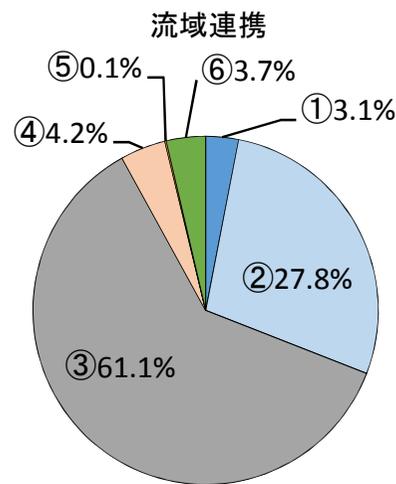
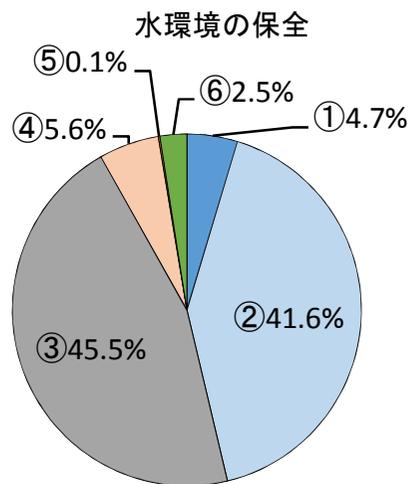
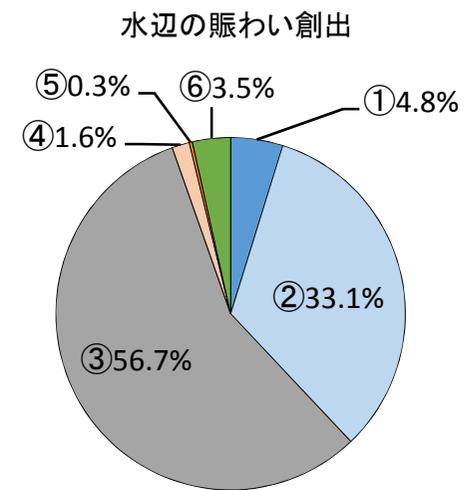
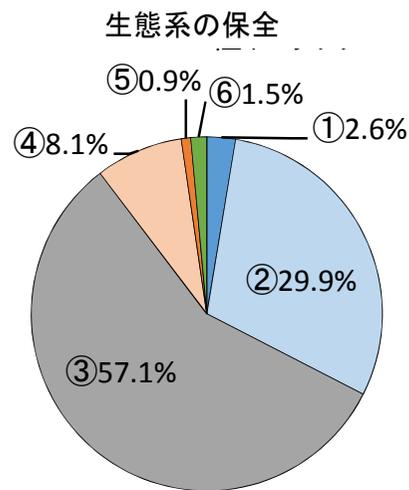
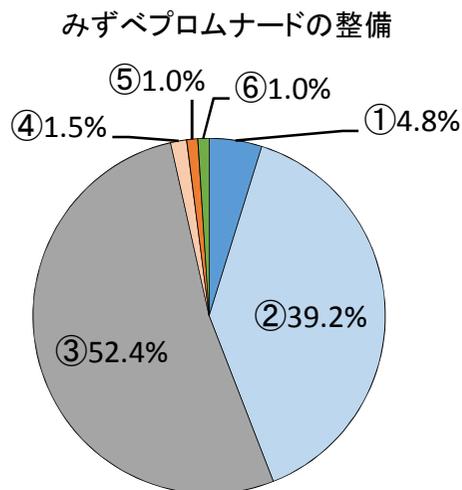
- 取り組みの継続・改善と重点化
 - ・流域を取り巻く様々な要因の変化に合わせた順応的な取り組みの継続
 - ・PDCAサイクルによる施策推進
 - ・多地域に係る取り組みの重点的な推進
 - ・流域圏の連携・協力による流域水環境の統合的な管理

- 10年間の活動実績の有効活用
 - ・10年間の活動実績を有効に活用した広報施策
 - ・学校の教材等としての10年間のとりまとめの有効活用

- 推進体制の最適化
 - ・今後の再生計画の推進のための最適な体制の検討

- 戦略的な情報の発信
 - ・情報発信施策の戦力的な取り組み
 - ・アピール効果が高い情報発信手法の検討

参考. 流域住民への意識調査



凡例

- ① 非常に満足している
- ② 満足している
- ③ どちらともいえない
- ④ 不満である
- ⑤ 非常に不満である
- ⑥ 不明

実施時期:平成25年8~11月
 対象:関係組織にアンケート票を配布し、
 各組織で被験者に配布、回収。
 回収票:683票

【まとめ】(自由意見含む)

- ・ 本再生計画が十分に認識・周知されていない。
- ・ 本再生計画を認識・周知できていれば概ね満足している。
- ・ 主な自由意見から、流域の住民と問題意識は同じである。

情報発信の方法を工夫しながら再生計画を推進してきた取り組みを継続することが重要